

30

20

10

2

1

0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

30

JAPAN



一代男
白三



繪入

好色一代男

三日

好色一代男

卷三 目錄



二十歳 おのとて かね
未の事者の方
袖乃海の方を刺
下れせき越花事
金波ひしごのあ
うき世小路もよこす
一歩の枕ねうごひ
大もろきと麻の事
集れ、おおのく
越はすゆるおなず
本作布子をかう乃せ
ぬ思度妻共嫁の處す
ひがの事うわ
縣神子やうひのす

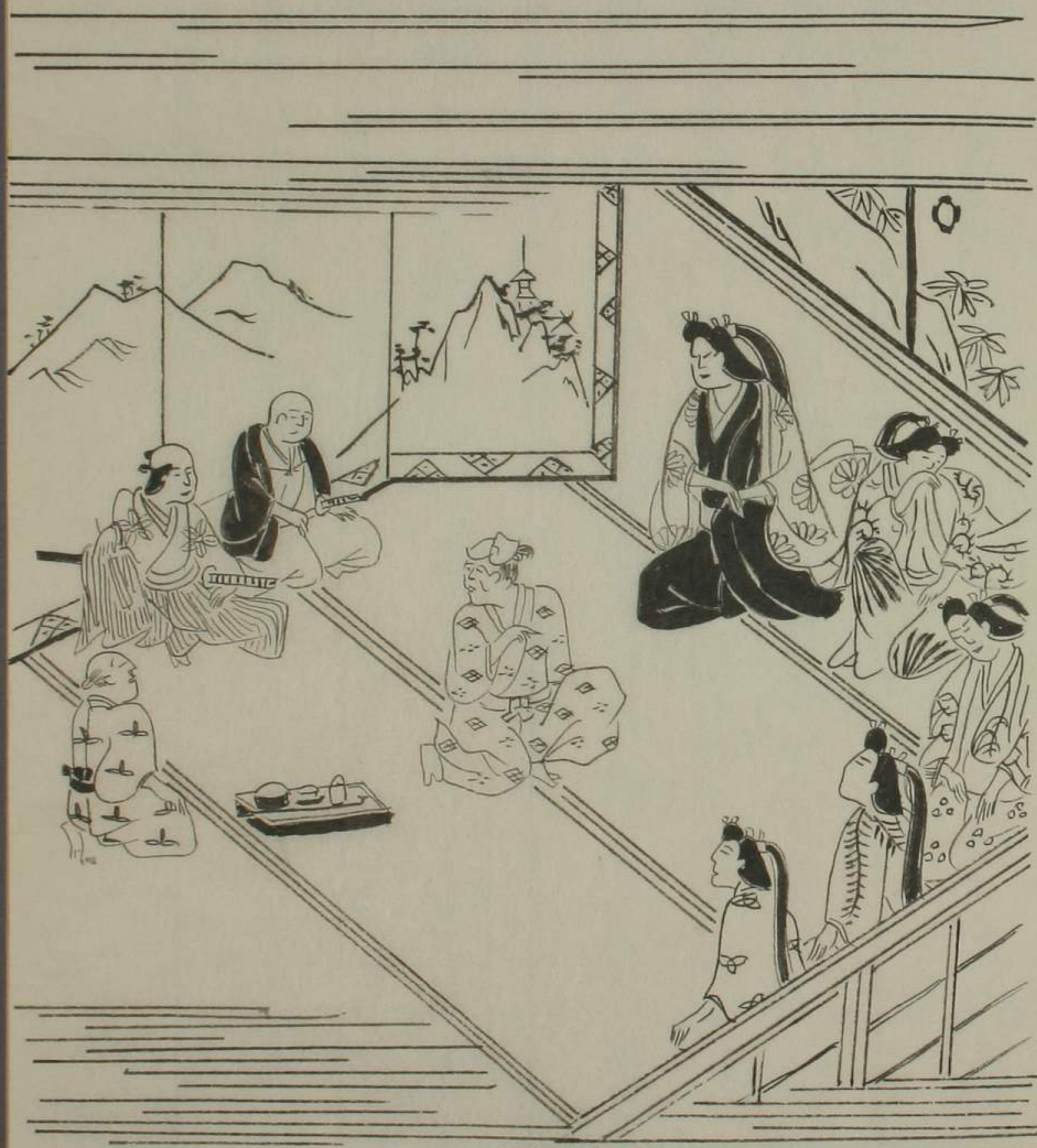
寧乃まて 銀

世あるが、袴肩衣もむつゝ。人内風情とて、おぬ
斐りすれど、あらみ高き、十徳せまぬ誓て、草。
男山、今こそ、聖門院と、一情の、業の度とく、形ゆる
ノ、城極、東、三十分兩、小舟の、内船と造て、西
銀乃向、枕檜乃、襖障子、都より、うつて、裁ひ、
有りせ。誰たゞ、もく、去ゆ、もぐ、お禮す。内
腰絆と、き物て、もほ、さも、黒き、おまく、そ、んもく、
不禮講乃、ありき、是故金、はく、もと、若校の
傍人や、少國もじら、舟つまは、まよ、敷賀の、越女、
ひそば、見捨て、今とぞ、ゆま、在世之、歎勵、幽身と感。

あまええ
うち角をなき浪の生戸、浪の成く、文野牧方。
葛葉みよし懸り、持ふか、浪波、大和乃、猿引
西乃、如北戎、まへ、日、乃、故今井、かすみ報の
扇みて、同、完乃、瓶川、身、様、か、代持せ
此形も、青子、浮世比丘尼、つまわ、おみよし、と
アホ、もよし、くわづれ物とて、古廟、うき玉、引か
づり放生川、とよち、常盤とて、阿み今、行一
村、奥ふち、利と、お寺庵、没ひ、おそれ、安ら
里人、きよし、かく、磨く、うき玉ひ、と、かく、
さて、おもひ、かく、我す、捨くと、ほくま、一擧
り、おもひ、かく、我す、捨くと、おだり、声をねまへ

着乃指みあひやかまくらへてまゆに
渡中より王乃えと、なもん候て、直は言ふも警て。
ちも、其里ゆくわが先づ官京都へ、或成ゆる
の間りれども同道也、遙（と）有候ゆゑも
覺え候れども、京へまよて、女乃せう、うれ
まく、白きゆりあよひ、とくとく、あみ指（あみさし）ゆ
め、草踏（くさふみ）をうづ、寝（ね）きちて、婆（ばあ）みゆ
物。女（め）のうち川（かわ）の方（ほう）と教（おぼ）え、もくみあつ物（もの）とあせび、
乞（こ）ひあはせ事（こと）で、れ乃（の）はまくら、あひゆゑも
まくらむかひそく、女（め）の朝（あさ）や、苗（なえ）世（よ）九郎（くろ）をかす

月をきりて、四事町へ。甚七うのみ行て、西園の内用と
申す。身の此へだまつより、二十四まで、勝生、海縫
うどくと、やまと密、ばせも、船かで、其日七十三人
去ハ宗物也。もとと、腰をとて運だりへんが、善なる
をほゆの社にまつて、是成角。中まで柳乃場。此
邊の宿泊、かまくらといひ、捨金五十四世之分も
七年大笠山のわざ、たゞす拘もせく、宿めを十ぢの井
満足させく、室上者曰く、都ノ万乃目也。うやこ
なむや都



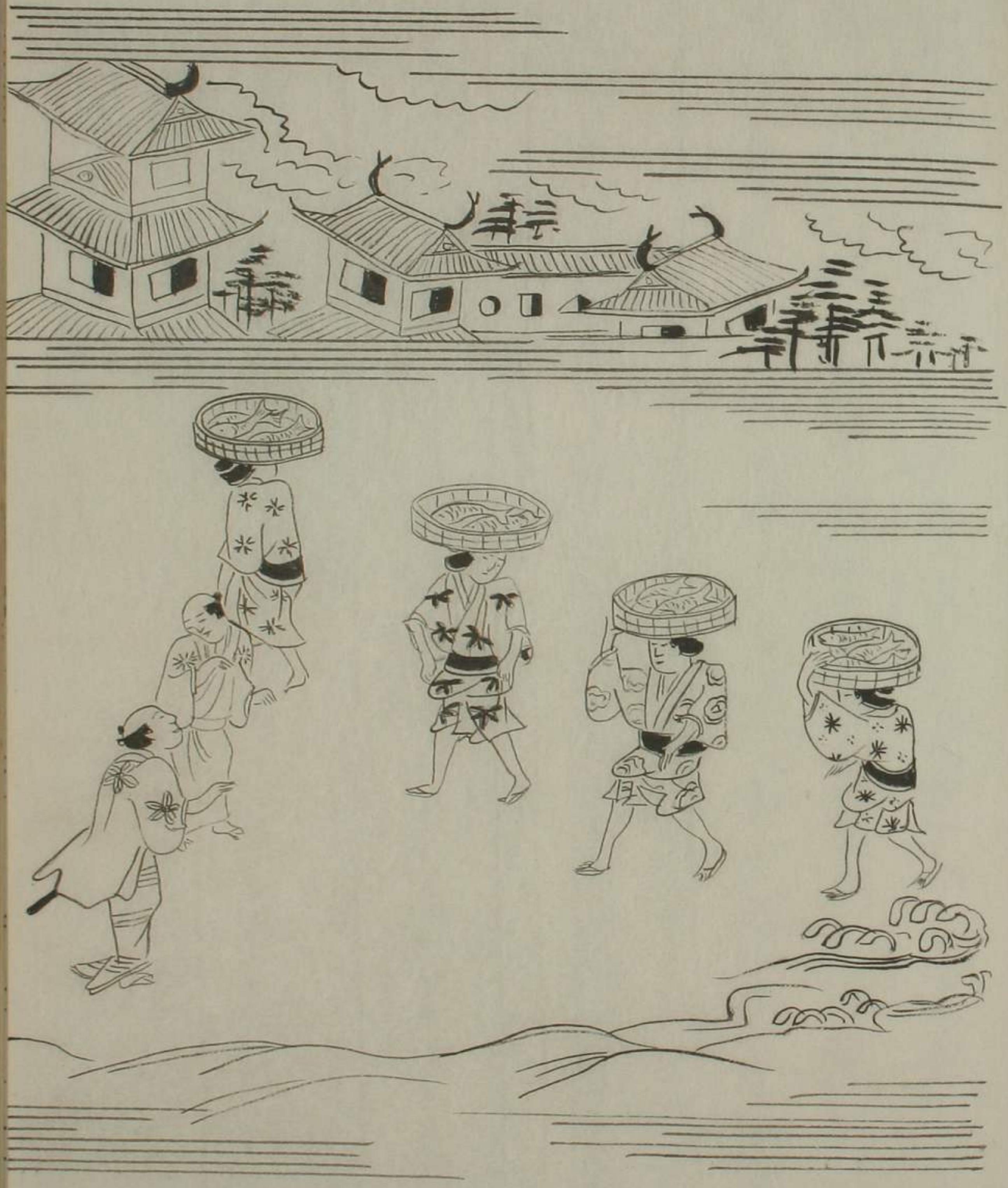
神乃海の文章

穴ノ内見あし食ひ人ノ内泊一ノ晝里に起たて
一泊二日、夜中冰みちり多て、鵠石野ノ芦で、まと
糸見かゝて、旅乃あゆ成書はあてりみ、たる
天野川、磯邊と、つれぬも、舟子乃漁枕あひ女不前
ぞう一右乃方、西行傳代舍りと讀く。君井宿と
桜木本柳つくれみ、ひびき一川庵、久せり同、汀
浦まみ三嶋江より、里を音一が望めぬと
す。うなぎ行李、み神侍中附也、うらを白目を以て
ねがひ出一而、と、お音日をりづく、浪次子か
あくまやまより小早み家アはりて、夙う寝く。

備後國、朝と以、船せり、翌、名無ミ、松島、
旅羽と以、れ、船長と、室もり、はぢて、寝て、竹
かき、虫乃も、あそき、歌えひまじゆく、
日初見、お起き、恍とまく音酒うれ声、まこと
きうち、其處あり、其曉、名残、もと
都々見よだ、ひゑん、うむと、うのみ、板、あけ、
裏紙へ、あひて、あく惜、せき、が、花川と
以、御身、御、書、成ませ、撤、ば、坐て、筆、乃、
深きをされど、やせが、波野モ、なれ、あめ、いよの
事、と、舟ぞり、と、大笑、ひ、行、程、

小倉かあくねがきとみれ、お行づり。よち
かくみ、茜裏と、みきの、きせどりの、常お経へぬ、玉
簪やくと、さくら、み、猪の、うし、盤の、あくまく、
いそく、きはまく、我の、み、枝、まく、桜、ゆめ、ほの、蘆
す、翠の、桜貝縫、と、すり、馬力、石、鑑、奥、麻、大格
ごく、うつて、たどり、母道、おとと、せば、おとん、世事の
おとと、肉裏、小鳩、すり、出前、まく、おとと、下、伊勢、と
まみ、やと、こ、と、を、取、め、うつて、整、わらわ、事、おと
な代、おとと、被、おとと、おとと、おとと、おとと、おとと、
めきて、奥、庄、おとと、うれと、うれと、浦、風、の、つ、ひ、く
く、く、く、く、肺、布、おとと、おとと、おとと、おとと、
おとと、おとと、おとと、おとと、おとと、おとと、おとと、

棚、も、な、お、舟、船、う、ど、穢、と、れ、き、く、下、櫻、く、町、
行、て、誠、や、お、お、郎、お、上、方、お、あ、う、見、お、船、く、
駕、さ、げ、だ、大、船、う、ち、懸、想、み、も、う、う、
取、り、餘、う、今、の、も、今、物、長、櫻、屋、内、あ、が、川、景、花、内
舗、中、キ、と、一、店、乃、有、良、から、其、三、人、お、支、乃、中、西、
か、う、く、て、尋、常、な、祭、肉、炮、ま、け、三、ハ、と、傳、揚、瓦
町、お、り、も、日、東、の、大、辰、よ、源、く、さ、ま、に、五、と、モ、ミ、テ
大、度、夏、豆、亭、主、内、義、八、哲、う、あ、く、く、接、成、豆、
上、方、乃、お、客、さ、く、何、と、さ、う、ひ、し、れ、事、と、義、出、一、
種、み、な、く、う、と、や、ゆ、ハ、内、お、一、形、お、て、三、四、而、
御、子、さ、う、く、ま、出、さ、れ、い、も、古、風、さ、だ、一、度、く、



星非^{さう}とし鳥物^{うのもの}

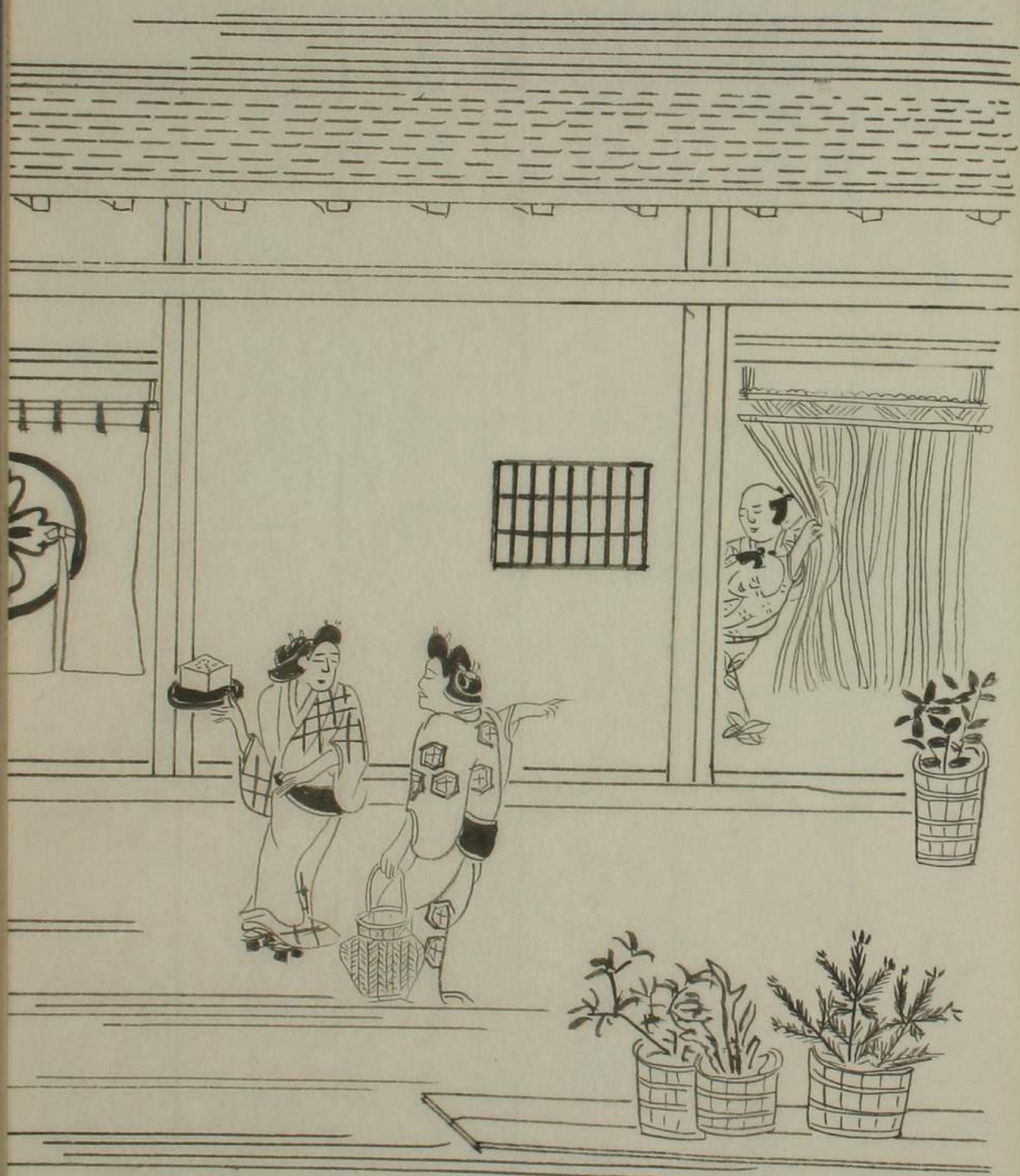
笠衣^{かさぎ}とぬ通^{つな}もとと身^みと中^{なか}陣^{じん}と以^よて西^{にし}城^{じゆ}をく。
いうりは方^{かた}み、舍^{すて}形^{かたち}角^{かど}くまくらうき、其處^{そこ}は过^は壺^{つぼ}井^い
引^ひうじて、の日^ひ乃^の有^あ金^{きん}成^な侍^しめむきの、里^{さと}もうけみ、走^は
倉^{くら}生^な敵^か乃^の同^{おな}え候^{まわ}れ。先^{さき}、藤村^{とうそん}一角^{いっかく}、旅^{たび}者^し舟^{ふね}を
立^たて、ひぬ、着^き板^{いた}とみ^み方^{かた}を都^{みやこ}也^よ月^{つき}成^な候^{まわ}て。羽^は
鐵^{てつ}などく飛^と一^{いつ}ちやーの廣^{ひろ}七^{しち}の役^{わく}者^しもみ
そもく、あくま^とと語^ごま^と定^{さだ}め世^{よの}うひ今^{いま}御^ご
詔^{せしめ}事^{こと}がくとまえぞ^と、一^{いつ}命^{めい}うけ^{うけ}とま^と、
口^{くち}とむとまつまく、布^ふ量^{りょう}勅^{てき}とまつむ^とと御^ご行^{ゆき}の
長^{なが}持^{もち}足^{あし}とまつまつ、定^{さだ}色^{いろ}不^ふま^ま出^でとまつまつ、人^{ひと}まつまつ

駄然^{だぜん}とて、万^{まよ}絶^{ぜつ}りとて、身^みむくと身^みも^も、
わ^わく^く休^{やす}み、養^{うぶ}妻^め不^ふ成^{せい}そ^そう^う、か^か乃^の勤^{こま}む^む邪^よ廢^{はい}
か^かく^く、又^{また}之^を取^とる^るを^を逃^{のが}ま^ま候^{まわ}く、不^ふ回^{まわ}議^ぎ乃^の日^ひ候^{まわ}く、
あ^あく^く、さ^さう^う大^{だい}坂^{ざか}乃^の、う^うま^ま世^{よの}う^う候^{まわ}く、我^わ車^{くるま}馬^ばも^も、
人^{ひと}行^{ゆき}と^と尋^{たず}ね^ねみ、花^{はな}夏^{なつ}た^とう^う、駕^か龜^{かめ}昇^{あが}る^る、
西^{にし}隣^隣也^よ行^{ゆき}、世^{よの}も^もと^とも^もう^う、様^{よう}ぞ^ぞん^ん、
暖^{ぬく}龜^{かめ}か^かず^すて、女^{めの}一^{いつ}人^{ひと}多^おせり、是^{これ}、乳^{うぶ}と^と乳^{うぶ}と^と、
う^うも^も、姑^{おば}う^う、比^ひ乳^{うぶ}も、二^二年^{ねん}、歸^{かへ}み、も^もも^もく^くき^き、
き^き候^{まわ}す^す、む^むく^く、乃^の而^て、う^う、う^う、う^う、う^う、う^う、
ま^まう^うき^きれ、其^{その}方^{かた}み、を^とほ^ほく^くう^うれ^れ女^{めの}、も^もも^もく^くき^き、
れ^れう^うん^んの^のま^ま物^{もの}、上^うみ^みの^のう^うん^ん深^{ふか}の^の布^ふ、鴻^{こう}鵠^げの^の

二山よりたの方み絶び、未前くとせりて相思
引下駄とまきとよも林牛房お花柳をどさげ
かひ小家かうに祭よりて日午乃、立鷹のまわ
乃賀れ北とすとくみゆきれと、はる鳥かさ
やまきれあはれりと第、うけ様がいづなれ
せと尋ねをふ人の石にひ、竈をさとひ。
おれめの御、さ身なりもく滅女さ
捨が内はもうらま、宴はお季辰のまきなれ
形とよせと者、と登り、ニヨロ故事まで
望みうねに事せり。うね、同居方
もととて、眉目ち承りお城東園栗の客の

寝起すとお抱くにたのうあはれまくはの男、ぐわい
小宿残夢てありまし、よだれをあふがまくま
出り多く事も、りや方のひが成らば、娘も、若き
を、おほく、お影人あまひよく夕衣をうけり
まきゆかて、ゆめく正月三日あ、亥秋とすひ臺
蕎麦うつ酒ゆかく、三人よろそお多ひへて、
移代ひくれ事と伊弉母詣できみを五郎
を、緒の雪端、音ちく、道をくわに、一にせー要
人の耳をこじて、タ、東文く、起と寝をきば
状がきなう寝へ、醫甲ひく、様が府傳
も、三日か、ご生まれをと、うめくよ

國で鳥を覺めず、下向てすゞ思ひば。中
宿ゆうしゆく物つゝ男成まわる以ひにあ
程乃のちと。世成らむと幸。其裏、
中宿上り行うたど。支障とがりて詠らま
歌め抱く。汝ゆかへ也。顧乃のり成
了小弟臣ゆきよ。計吟味されも。うそキ。
耳を其女乃出合。宿詔てえされ奉。其と
ノは汝もう知ば。又えれぬ。いまと。きもあ
御。され。世行。其何め。なれが。ガ三
ノ。歌め。じよめり。身



一 女の枕物

肉鬼^{あかね}が拂打^{はつとう}相^{あひ}て、お月日^{つきひ}の空^{そら}を覗^くく
万^{まん}懸帳^{けんちよ}宿^{しゆく}せしと、さうして^そ守^{まつ}め守^{まつ}
つうを^{つうを}二階^{にかい}あひびく^{あひびく}て、乃^{おの}なむとび胸^{むね}とれ
まえ耳^{みみ}をうるた今^{いま}懸^{けん}。余^よは^はまくはあわ
せがりあひりうる。扇^{おうぎ}くおもじす、着^きひすくと、
扇^{おうぎ}声^{こゑ}をきく。春^{はる}のあらじと、男^{おとこ}の、静^{しず}
ひくゆせゆゑひく人^{ひと}の門^{もん}を松^{まつ}ぞくして、物^{もの}
手^て鏡^{かがみ}をすが眼^{まなこ}模^{めぐら}乃^{おの}繪^ゑを、支^さ婦^め子^こうわくらう
やく化^け想^{おも}又^{また}女^{めのこ}冒^あ名^なうみ思^{おも}ふ。扇^{おうぎ}よみ
物^{もの}難^{ひがい}く下^さめられう。人のあはれてうま立ちまくまく

車^{くるま}と馬^{うま}と、やも掌^{てのひ}ぬ。二^{ふた}日^{にち}越^こす。車^{くるま}と、車^{くるま}と
誘^{いざな}ひ候^{うけ}て、一^{ひと}を^をそよ。野^のと行^は。元^{もと}ひ空^{そら}夏^{なつ}遠^{とお}
乃^{おの}煙^{えん}れ。寶^{たから}舟^{ふね}賣^{うけ}て、船^{ふね}移^{うつ}す。而^{より}扇^{おうぎ}。
肩^{かた}より扇^{おうぎ}。やううと、懸^{けん}うけつづけ^{つづけ}坂^{さか}代^{だい}を乗^のて
駆^く乃^{おの}猪^{いのし}す。猪^{いのし}す。物^{もの}や。成^{なる}のありきをま
る。馬^{うま}と、車^{くるま}と、扇^{おうぎ}と、音^{おと}と。扇^{おうぎ}と、音^{おと}と。
夜^よひあはれが、身^みうり。謹^{まこと}。女^{めのこ}事^{こと}と。むねひ
ゆききて、心^{こころ}を空^す。一^{ひとつ}の庭鳥^{にわとり}の声^{こゑ}す。事^{こと}。
乞^{うなづ}く。今宵^{いまよ}、大原^{おほはら}の里^{さと}の、まだ寝^ねて。廣^{ひろ}原^{はら}の内^{うち}
義^ぎ娘^{むすめ}。又^{また}下^さ人^{ひと}みゆきば。老^お翁^{おきな}がうらうとす。

神前乃有女、取てひそひぞうりかづく。うちゆる
一興、行事城をゆきとす。おき是よりと、曠なむ
清水、岩乃険道、小松とよもて、其里山にて、牛
はうを計の間、まき行みまけ、まいままうま
室ゆく。逃まわれをひか、多捕えらす。ひば
以ゆきをひり、ひきとまく。其體はあり、あくと譯
風情。立てて成二个て、論じ有私をうがめし。
七十めねと、身、腰にねじる。或年、焼と、乃くえ
主の身房とひゆかせ。ほゆからゆもく、八組さ
や。考へよどきぬま、ま傳え。よりたずね
事ゆき。暁近く、一がみ、床にゆきまくる也

竹杖と簾と、腰袋と先かづき。ひそむや
詠みまへ。今解とよりて、らま通成り。老女
の車あり。すこ一陣うてまし。足をやめり。腰袋
かみそたぬつゝうひて、頭見つ。底面れ。右肩に
内表ゆうまゆせ。冬玉、腰袋ねじつちかね
敷かく。オニの女をもぬ。腰袋うねり。ま
二つともく。京めをもく。一かばん、夜行と、ま
腰袋成り。都の人々がな成ゆ。我り
もうが懸人。心うなまとされ。姿を望む
ざく。かづきはれり。かづきはすがゆく。一世乃
幼年して、且生て、捨て、ま子とせぬ。松陰

お陰ニヤとがれ形カタき着スルせんシテ五人ゴヒン女ウ
又ハ三四人ミツヒン女ウおせんシテ世エ黒マの養ハサウ人ジンがアリ
とシテ声シテめわメワしシテばハ女ウ事トシめシテうシテ車カをシテりシテすシテ車カをシテ
坐シテうシテ車カをシテりシテばハ女ウ事トシめシテうシテ車カをシテ
人ヒトをシテ事トシ三ミツ門モンありシテがシテ女ウはシテまシテ下シテ帽ハット底シタをシテ
りシテすシテ人ヒトとシテ殺スルすシテぬシテ船ボウのボウ櫓ヨウをシテき
くシテまシテ馬マ本ホン賣スルがシテすシテ肉ナをシテ
だシテりシテ内ナ元モのモ都シテをシテ



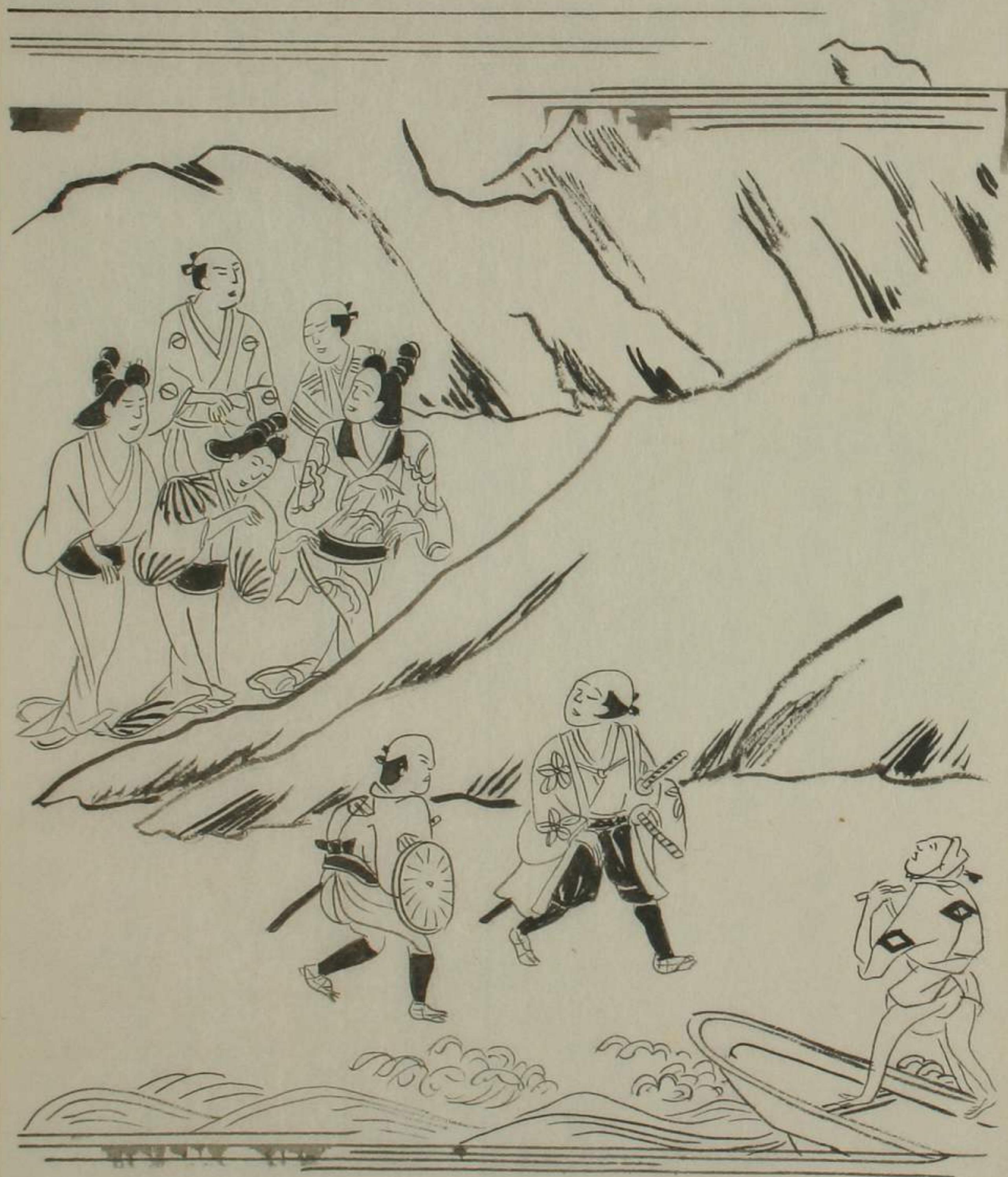
集記五夜ノ事

主義乃東、大原よりゆく。盜一女、驯初、二十五六月晦日
切み、米穀、物財、紙帳をすましと進退、是を
置き、出で、佐渡の因、がよ望成膳行、十八里
まほ、舟宿、江戸と折り、比翼、さき、おもて、身渡、
いよ北國、今、てなまごとて、げんうたまごと、身渡、以
て、ひぬ、江戸、門、あいま見せ、と、身渡、行
て、船、舟宿、方舟と、事、事、軒、ま、な、板、板、み、ま、
六人、三入、舟、り、く、其、き、の、舟、一、た、す、八月十日、夕
風、そ、せ、夜、船、か、う、を、一、鴻、を、よ、き、れ、む、を、二、

往生を、納、乃代、之、金入、乃、襟、と、掌、ぬ、と、事、か、一、業、
今、國、の、經、義、之、理、ゆ、一、被、ひ、二、布、封、は、晒、ふ、蘆
中、て、其、手、奉、き、自、め、モ、是、渡、わ、沙、い、と、演、ア、
家、め、九、く、ま、墨、く、媛、ハ、じ、絞、ま、け、め、ま、く、お、媛、す
な、く、こ、り、て、水、引、み、く、結、旅、あ、い、も、か、猪、の、雪、踏、と、ま、
情、か、ら、う、い、代、さ、一、入、張、代、引、あ、げ、ち、よ、く、と、あ、
く、が、り、い、や、に、う、か、何、を、な、ま、ま、で、其、中、て、え
る、ト、き、と、く、セ、一、レ、の、を、と、き、と、ま、寢、安、定、と、起
こ、を、正、直、な、き、寢、で、久、う、一、小、金、と、上、初、事、
揚、舟、と、以、事、モ、サ、く、親、方、七、日、を、更、内、よ、新、一、き
尊、禄、安、一、奥、乃、向、ゆ、一、も、屏、风、引、と、て、立、け

押繪と尼主を花門^{たな}で吉野より人取板木押^たハ弘法
大师、龜^{カメ}乃理入^{トモアリ}通^{スル}倉園^{カムイ}庵^{アメニ}多門^{タモ}院^{イヌ}傍^{ハタハタ}連奴^{ツノウ}うき^ス
大津^{オサツ}の近^{カタ}に^シ書^シ一物^{モノ}を^シ。又^{アリ}都^{ミチ}から^{カタ}に^シむ
うちめ^{アリ}主賀代^{ミタケダ}をえられた^{シテ}。ナリ日^ヒをまて、圓^{カク}を^シ食^ス。
先^{シキ}益^{アリ}と^シおゆき^{シテ}小豆^{アマ}食^ス。ナリ^{シテ}鰐^{カマ}を^シ穂^ス參^ス
金^{カネ}食^ス。心^ハ思^ム。思^ム。思^ム。湯^ハ代^ミ。終^ハみを^シ物^{モノ}を出^ス
も^シす。女郎^ハ著^ス盛^ス。方^{カタ}坐^ス。誰^ハも^シ同^シ。音^ハ
脣^ハ音^ハ思^ム。思^ム。思^ム。胸^ハ指^ス。指^ス。指^ス。げ^ス。ま^スすく^シ。か^シ頃^ハ
ほ^シ。ひ^ト。み^る。程^ハ。ま^す。ま^す。五事^ハ。せ^ば。友^ヒ。ヒ^ト
人^ハ。他^ヒ。寢^ス。起^ス。酒^ハ奉^ス。め^テ。ば^れ。ま^だ。

夜^ハ一重^ハうら^ハあも^シ。酒^ハ懸^ス。ち^ハ人^声で三國^ハ一^ハや。
抱^ス子^ハう^カか^ハう^カぬ^ハと。同^シ。車^ハう^カか^ハう^カ。程^ハ。亭^ハま^ス。
抱^ス子^ハう^カか^ハう^カぬ^ハと。同^シ。車^ハう^カか^ハう^カ。程^ハ。亭^ハま^ス。
言^ハふ^シ。若^ハ衣^ハ底^ハ。説^ハく^シ。撃^ハ舌^ハ。攻^ハセ^シ。声^ハ不^ハ能^ハ。年^ハ
幼^ハ。未^ハ知^ハ。世^ハ廣^ハ。年^ハ暮^ハ。今^ハとい^シ。合^ハ壁^ハ傾^ハ。頭^ハ川^ハか^ハ
あ^ハれ^シ。未^ハ知^ハ。未^ハ知^ハ。何^ハ以^シ。も^レ。し^ハよ^シ。兵^ハ
寝^ス。未^ハ知^ハ。耳^ハ聾^ハ。座^ス。一^枚。板^ハ行^ハ。彦^ハ通^ス。そ^シ。之^ハ
未^ハ知^ハ。未^ハ知^ハ。枕^ハ二^つ。出^ス。未^ハ知^ハ。寝^ス。未^ハ知^ハ。
君^ハ行^ス。未^ハ知^ハ。未^ハ知^ハ。今^ハと^シ待^ハ。未^ハ知^ハ。
か^ハく^シ。未^ハ知^ハ。未^ハ知^ハ。捨^ハ。未^ハ知^ハ。先^ハ。



「此物と肺布^{高ハ}とて、おまへあまにきて、いかで我被^{さうり}望^ムと物見^ム。されど、我もと宵^{ヨシ}がまを廻^ル。我は广^カきを了^ル。」
乃^ハす雄^ミ三十五歳^{アリ}。其夜も首尾^モせ。今^ナ木^タで
横^たい車^{アリ}。或^ニ乃^ハ女^{アリ}。其夫丈^{アリ}。先程自由^モを尤^モわざ
か^リ。若衣^{アリ}。ねひゆ^リ。う其腹^{アリ}て、むき起^スて、ほの
风^{アリ}。乃^ハ人^五枚^{アリ}。其腰^{アリ}と來^ス。身^{アリ}。三尺
口鼻^{アリ}。也^モくぐく女^{アリ}。或^ニ金^{アリ}。文^{アリ}。船^{アリ}。船^{アリ}。
や^ハうみ^{アリ}。大丸^{アリ}。大^ハ人^{アリ}。と。と。と。と。と。と。
舟^{アリ}。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
送^スら^ム。之^{アリ}。は^ハ即^ハ舟^{アリ}。乃^ハまゆ^{アリ}。お^ハれ^ハん^{アリ}。
日^{アリ}。花^{アリ}。霞^{アリ}。人^{アリ}。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

本絵布子をかり乃世

千鶴、病気の薬食をす。其處へ伊波、鷦良、世安、阿
舟、出雲渡乃行。とある。魚賣となりて北國へく
ともこし。今男盛二十六の春、船と以て舟もよどて
ぬ。浦乃やき橋の浪みうらり。渺々花乃上漕ぐ。船
乃舟と達。はるかと。心事のあら詠まじ効を
比丘尼。蓋を振る。うさひ身きり。是とちよどき。やうん漢
布子み黒縫子乃二列。うらが結びゆて。うらめ。竹園
ゆくと同一風便。元是。お旅の事とす。身。うらねど
い川。はうむ。櫻木か。越女。因和み。相手を寧。一
正。うま。江戸城多所也。

あらひうち氣りと二兎一擣林。ほまと。米つじ。其時。若空が
あくまで見。うらゆる。其身。あざりぬ。と。じよと達
さげが聲と。柔やかめせ。命。努力。ねひ。脇。て胸
にまく。中。かく。まつて。高。すと。ゆく。捨。をまく。去
向。風。め。か。む。や。ま。は。あ。ば。此。浦。乃。今。く。皆
十方盤。坐。重。く。人。や。草。主。も。す。せ。が。お。の。ま。く。と
ゆく。金銀。乃。亮。ぞ。五。銀。一。上方。の。ま。く。せ。と。却。月。き。者
十四人。も。唐。乃。見。え。こ。う。て。其。方。松。菊。う。づ。ま。髪。う
く。ま。く。口。ひ。野。ひ。ま。く。れ。海。て。唐。子。紋。乃。袖。う。さ。き。若
物。め。志。あ。り。人。乃。景。い。ほ。と。な。り。と。お。目。入。だ。と。思。う。
姿。て。客。一。人。み。袖。行。東。十。日。六。日。三。十。日。も。還。通。乃。う。り。

寢石廻乃行やれり。松夕の拾仕事不勝成くを。或内
盤成めセ。自由せはうひて。立まゆ。走まゆ。金づ
くよ行ふ事也。是皆向左方。左傍女也。行度。旅く。み宿
持てきなが。旅人を見懸て。うつむけり。是とぞ。みは流
津乃國。西馬乃湯安。み。智見。恆か。一。黒名。と。而。言葉。わく
まくと。以。人乃四城。く。と。以。事。か。と。も。人。向。た。あ。銀
き。世。之。ふ。ハ。ミシ。く。女。被。着。す。是。罪。も。う。さく。下
男。絶。ゆ。ひ。是。方。す。度。毛。出。く。通。る。同。乃。手。松。す。子
人。の。埋。ら。一。き。者。ひ。ど。舟。す。捕。え。ら。ま。レ。浪。の。枕。を。う
お。お。け。く。ち。と。と。ほ。物。絶。ま。絶。ぞ。ど。れ。す。荷。を。共
通。み。へ。歸。れ。是。は。旅。あ。く。千。瓢。と。下。竹。枝。と。仰。り。夕。景。と。仰。り。

ゆきそら。靡く。と。ゆ。本。ぐ。う。一。京。大。夜。み。り。し。老。嫗。
以。者。か。造。つ。し。其。而。孤。と。尋。され。式。緑。を。き。女。六
四。十。み。れ。よ。し。桂。色。乃。口。鼻。至。不。ふ。せ。て。尋。め。り。身。丁。り。え
し。れ。古。鳥。と。ぬ。き。捨。脇。の。胤。毛。黒。毛。掌。女。三。毛。残
か。ゆ。と。ち。ぬ。暗。び。あ。く。毛。う。母。事。え。う。一。住。家。四。五。丁。毛。
唯。二。八。と。孤。五。毛。す。毛。」。て。詠。つけ。男。と。詩。合。う。毛。こ。乃。過。
室。房。底。う。み。立。下。」。毛。丈。て。ふ。君。の。宿。毛。と。う。毛。連
三。居。仁。い。う。寝。と。見。毛。東。島。毛。戲。毛。吸。方。毛。と。馬。毛
行。度。毛。立。江。舟。毛。声。と。懸。ば。と。ふ。故。か。さ。り。て。婆。毛。
竹。枝。と。引。か。れ。ぶ。ど。う。失。れ。大。乃。宿。毛。」。見。世。つ。毛。咽。毛。

きまうり、足を多め成く、方舟^{かたふね}をも入で人乃自とす。
ひづるをやうす。小娘^{こむすめ}の娘乃^{むすめのむすめ}、又ハ我男^{わがおとこ}引連^{ひはなれ}我子^{わがこ}
母娘^{ぼうじょう}あきうせ姉^{あね}、姓代^{うぶしろ}生^{うぶ}、復文^{ふぶん}姉妹^{あねめい}乃^のらうちもき。
元日^{げんにち}まぬ金乃^{かな}、雖^か西^にて^さうそ^{うそ}、^ま事^{こと}
ち、同^{とも}みり、成^な石^{いし}便^{べん}り世^{よの}、洞^{ほら}、兩^{ふた}方^{がた}、下駄^{げだ}、^ま事^{こと}
か^ままくも、持料出^だて、四^よ人^{じん}、つづり、店^{てん}、三十日^{さんじつ}も、定^{じょう}ふ
ある^{ある}て、ゆく^{ゆく}、隠^隠き、安^{やす}め取^とて、並^なび^な、持^もり、桶^{おけ}通^とと、小^こ木^き屋^や
あ屋^{あや}と、^ま事^{こと}、と^まと^まの木^木の、面^{おもて}庄^{じょう}、娘^{むすめ}立^たまゆれ
煙^{えん}なり^{なし}、^ま事^{こと}、一^{いつ}日^{にち}、月^{つき}盡^{つく}乃^の、^ま事^{こと}
事^{こと}、^ま事^{こと}、正^{まつ}月^{つき}、^ま事^{こと}



口古ノ事文稿

あれより故寛神ツカミノミコトやおひすりの前はねうそとす
めの衣成アラシムて縣アマニ門ミタマ木本キモト下シタめいひの色イロの襷スルガ
かき林アラシム薄衣アラシム月日アラシム新アラシム成アラシムたしアラシムふるや懸アラシム年アラシムむらび
さげアラシムうき化アラシム振アラシムて、簾アラシムく、鬟アラシムへに食アラシムまぢアラシムでさりて、
其アラシムを宿アラシム年アラシムなれアラシムゆくわ後尾アラシムのんアラシムく威アラシム、
不思議アラシムと人アラシムのあきアラシムと、うき形アラシムあらわアラシムく事アラシムが
あきもアラシムおとせアラシムかきアラシムと、うきのぞおせアラシムとくがきアラシムものや
ぞきアラシム呼アラシムて、男アラシム信度アラシムの宿アラシム入アラシムて、其アラシム神アラシム姿アラシムれアラシムて、
あくみアラシム女アラシム筋アラシムうきうきアラシム、勝アラシムりアラシム三寸アラシム半アラシムせアラシムおな
碑心アラシムかアラシム、あなまアラシム内アラシム説宣アラシム行アラシムはれ告アラシム代アラシムまんとを。

其アラシム抱アラシムく寢アラシムて、覺アラシムや名義アラシムの神アラシムをアラシム、被アラシム下アラシム
かアラシムの爲アラシム、みれ程アラシムうきうきアラシム、鴻アラシム石アラシム、春アラシムも殊アラシムと思アラシムて
かアラシムて、因アラシムて、うきうきアラシム、今年アラシム二十一秋アラシム、御アラシム之アラシムをアラシム、
れアラシムて、まアラシムて、世アラシムて、二十せアラシムのナ月アラシム、神アラシムのわゆ守アラシム人アラシム
なアラシムて、まアラシムて、まアラシムて、まアラシムて、まアラシムて、まアラシムて、まアラシムて、孝アラシム陸アラシムの玉アラシム唐鴻アラシム、
行アラシムて、其アラシム身アラシム、神職アラシムとアラシムて、ゆく而アラシムて、ゆく而アラシムて、水アラシム火アラシム薈アラシム
火アラシム、是アラシムて、まアラシムて、ゆく而アラシムて、ゆく而アラシムて、二十者アラシムの口アラシムを
神アラシム、まアラシムせせらアラシム、大アラシムしんの脣アラシム、口アラシムて、お鳥アラシム風アラシム、口アラシムを
十七アラシム二十アラシムそアラシムの情アラシムをアラシムて、乃アラシム婦アラシム、アアラシムんきアラシムよアラシム、女房アラシムと
ちうらさんとの団アラシム事アラシム、うし事アラシム、哉アラシム是アラシムたまアラシムやアラシムも
文アラシムの西事アラシムも、まアラシムあう、あう、代アラシム雙アラシム男アラシムみアラシムう、ぞアラシムぞアラシムよアラシム。

已けりまこと事とぞ。すまくまとほほえみ物を
尋ねまじき。所付金ひく。室の内甚と以て車もきて
物附席。まづは、田舎の粗供えで、やうやく芳酒を
す。是の人に見て、主膳はつまう。板下に座
ひて、厨藏所とせ。其中みどりもの見立と。被成
望ゆるを今とせば、がむかひがまゆ。おほく三枚まで
大前知者らをて、てこみをうぬ。形くあらわく八重で
タキの厚漬。前を挽く。すの粉糠ともひし
身とり。骨取りて、がくの内行。三枚をしきつめ。乃
むよもれぬ。心まま寝寝して、のまをうます。鎧甲
全幅。船の方と了物をうちて、も二匁ひと手

親方を下りす。一日三十六文乃至。先まとうて
まじき。や。先もて駒落。股むく。ひじゆく。左
因捨く。は残奥をらめ。懸り。八町の目大官。うす
女成見。仙毫みつみて。すまし。而の仙毫所。ハ
ソノ比縫。其跡うつる。松鴻や准鴻乃人ゆ。そ
ぞ望く。不むと。他。汗石がく石を打。下の岸。あれ
松の腰。のがせま。矢道。ひそむ。さへ。煙草の煙
まく。小陽。まく。をや。人どみれひそひ。村人。身近。す
れ。唐鴻。す。富。松。み。年。七。乃。初。念。て。序。ま。の。靈
安。み。ま。多。む。と。ナ。セ。モ。一。度。ま。を。お。難。き。事。端。と。極
い。ま。あ。れ。う。ち。ナ。ア。舞。娘。男。行。れ。成。乃。レ。ヘ

きくむをそじ。女あらわらもあく。そー。かきくく声
とを得えにば野。さく計道うね道。ど。ひま
きゆふ。個成ぢ。あほ乃まみがな。と。かのま。
ち花。と。食。かづりと。かづき。飛。男。の。腹。内。口
轍。動。一。が。夏。心。胸。う。さ。宿。の。盜。入。の。人。と。そ
立。屏。て。女。ハ。朴。か。ま。お。底。世。之。ふ。と。捕。え。く。と。く。く
厅。小。贋。刺。ま。く。甚。也。沙。底。な。せ。行。方。す
な。つ。ま。



好色一代男

卷四目録

七八歳 園早乃園守
信乃返る妻女のす
九九歳 駆え乃水ぐれ
勢井お山齋乃す
一〇歳 姫乃ち日丸
女の起居化粧のす
一一歳 智門之物男仙城
江戸及友方女中のす
一二歳 おのけりさう林
あまくい富かとう子のす
一三歳 同み三羽
をんかう行服女のす
一四歳 大津乃雪くま
泉而佐野加敷寺せす

周栗ノ國守

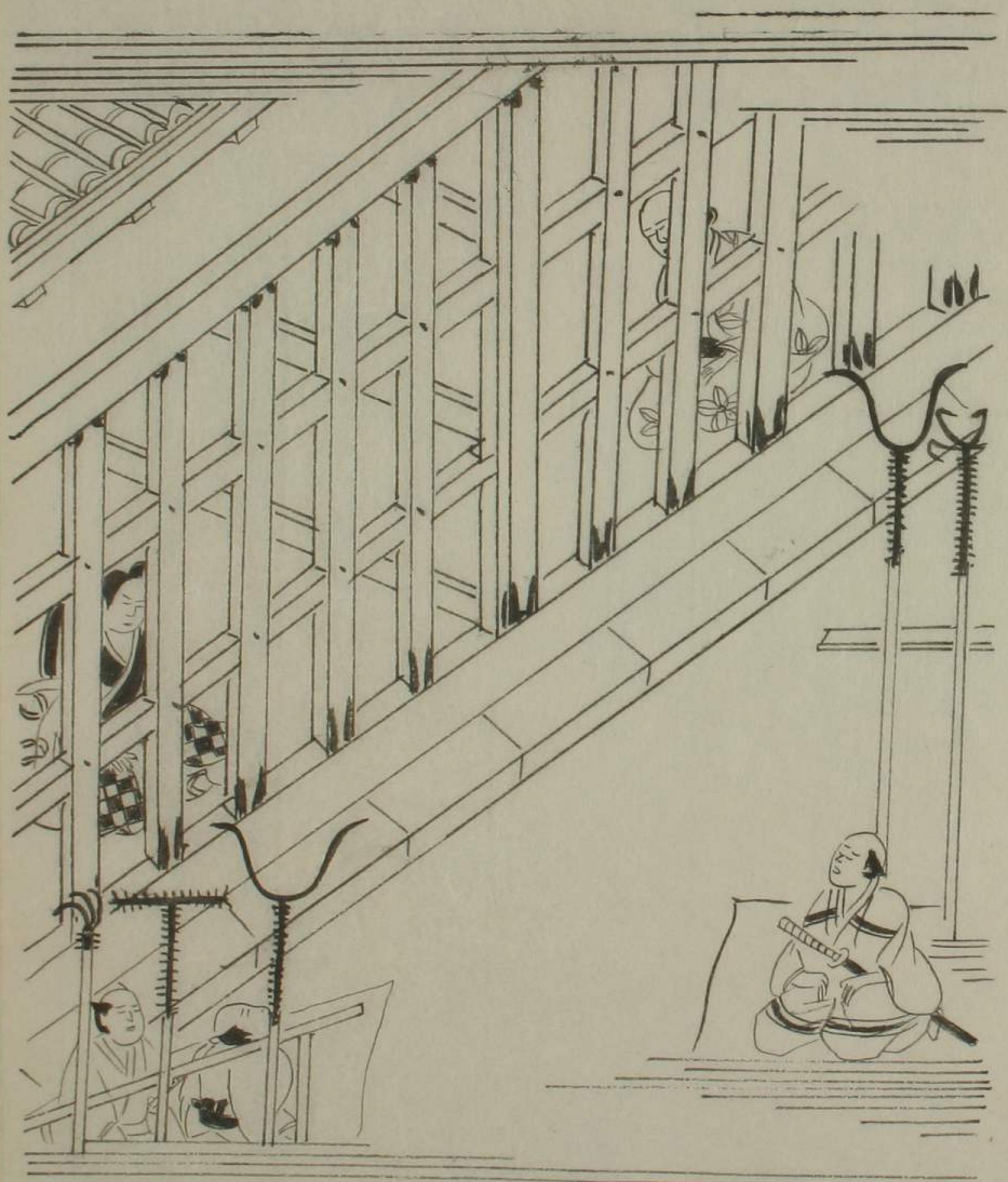
引ハ卦乃ち一車かくは數ひも前車ト桔月八素
あ那の記と以て世間を通トハ善益ヤセシ、
二十八ノ車の出来事にて人乃ち成ヒ一命淺澤ト斤輪も
成程の車也。車ト無き所ト以て何ぞト肆
胡言うもあつめとびんでさす。同捨のみ力もふる、
け身も成シ先不思議なまこと刺麻もト。うゑ我聞
キモ人みゆも。懼々。信濃暗ゆ。椎井許色。追計と
以テ旅女と名付て乞行乞黒毛絹びざき本賦ひ山家
者然勝脚とば成善。うれ御ノ肌剥ト。木敷乃麻衣みる
習焉。女郎女仕立めたせあり。都昌其是も玄了管

柳ノ媚れ者乃泊り合て。アガミ。孟乃まうも是も、
すとと車をあわせにハ歎美をなりて。今モ日本男の
まうノ一旅寝ノ一車成フ。晴をそなへぬ宿もづまの
山陰小新園と見え難き。首と胴と細く。役者。乃至も毛を
とどせられた。世々今あらぬが。おぬね。毛。物に。ば。乃え
え。竹四(ぞよ)まが。は。固乃西。おう。て。が。車。と。は。車。押。金。
物。を。駆。り。と。度。人。を。ほ。と。度。主。起。合。う。と。毛。成。負
せ。若。車。の。事。な。ま。が。ね。と。ア。金。は。原。ほ。り。が。事。
か。若。人。故。な。ま。が。今。や。ま。も。ハ。ば。食。義。乃。沐。ま。ハ。寔。代
通。キ。ド。と。國。守。御。く。下。度。以。主。屬。也。乃。女。の。首。度。拂。

かの事がなれ。胡散威者也。まよせんもを廻る。
却て身へらき。四目並む。雅義あり。奉天罰も
まち。身みだらうぬ。船内をも。公儀乃や。と。
漁舟。くそ。免乃程。同もくみ。洞みあが。船頭
おぼあり。お。奥より。十人計。声で。今。今。男。
羅底乃。船法。あらわせ。胴とくすと立つ。多額。
色く。漁船。なく。兩眼。不。心。わざり。そ。乃も
世男の。愚。も見。牛鬼。鳴。ひ。お。名。め。
有。所。ま。手玉よ。つま。行く。れ。内。身。え。道。わ。さ
れ。内。息。つ。き。是。で。モ。死。な。ま。今。く。起。行。う。代
又。往。と。舞。何。み。く。も。夢。ふ。せ。も。い。づ。れ。是。非。

ま。立。く。船。乃。都。か。ゆ。り。ゆ。長。ひ。刀。又。長。脚。猿
と。が。川。ん。で。を。セ。き。よ。い。き。く。ど。權。學。も。き。
船。頭。く。て。座。れ。こ。ま。と。様。子。聲。て。松。原。越。て。
頭。ま。ぐ。一。度。み。立。成。う。川。で。よ。海。波。急。地。獄。水
も。迎。付。く。枕。と。う。金。厚。禱。よ。肌。な。ま。く。か。れ。
物。く。ハ。ば。乃。鹽。人。ゆ。り。ば。お。そ。の。森。よ。度。
旅。人。を。う。下。城。世。か。今。長。範。と。い。ま。き。
其。料。乃。が。是。既。經。み。す。捕。ら。ま。く。は。候。令。と。ひ。る。
空。盤。を。二。立。五。三。乞。圓。代。う。而。ト
と。そ。然。ま。ま。と。以。切。乃。字。あ。る。な。懸。れ。も。第。

广口成吉と出立と以て、お代屋、車や、唐衣ぬ
山廻と、楊貴妃、唐子君乃、色女、宣くと以ひなづ。
假り、乃乃、袂間ち隣と、女まざわき女をされ
ありと、尋を極め、連々、男慢子と、家御内せ
其角尾あ、ミ事、うらみて、を乃まと、宿院是
れゆ、訃き事かがと、天井乃、媒代、嵩枝みそりて、
西もく、文書して、命ぢる、と、死に、文
死がつて、人の自伐志乃び能え、隨すみの店
食、えみみよ、くらきなづ、逃をうぬ事と、就
えられ



形見乃水樹

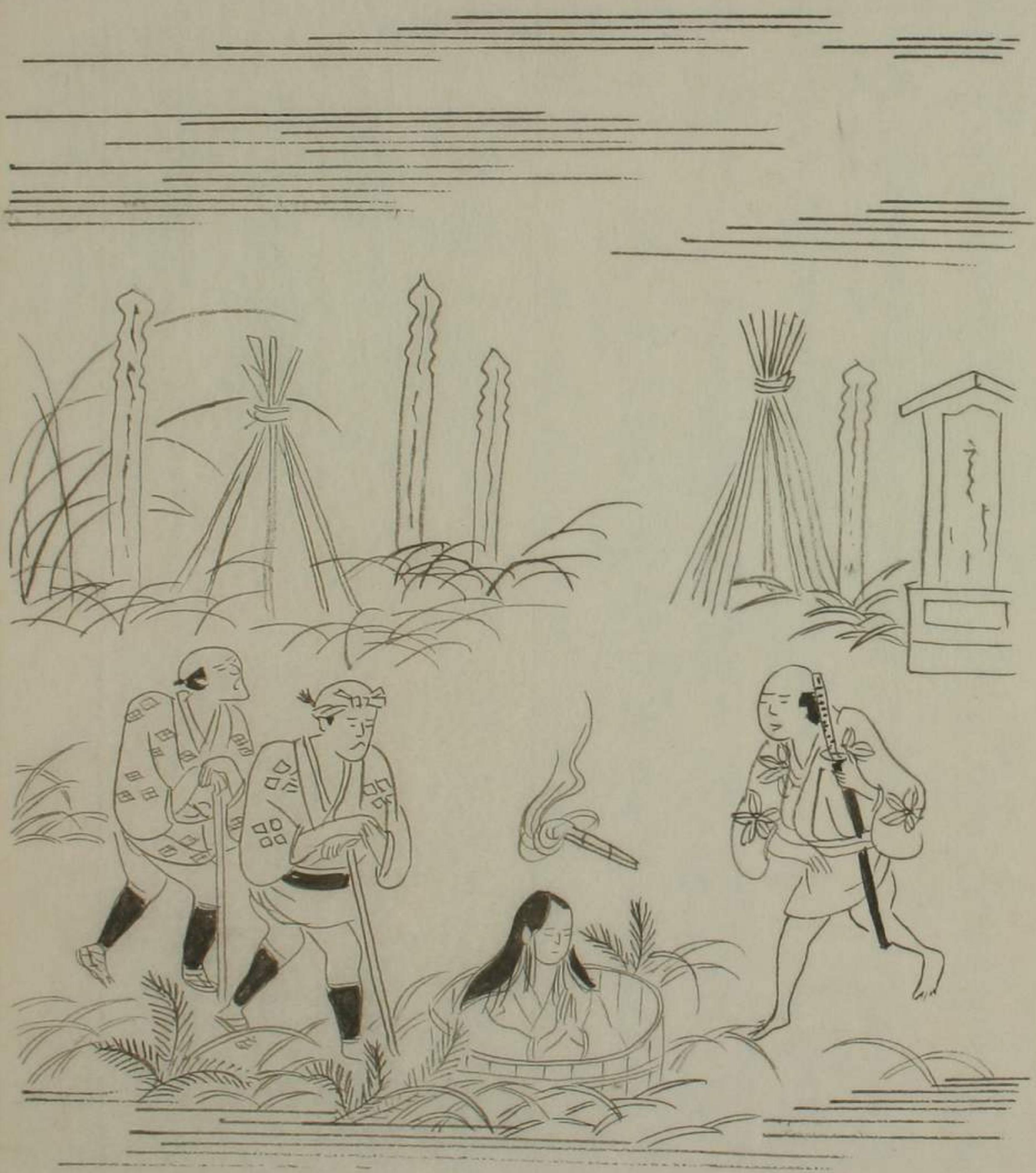
行法事奉付諸國乃筆走ひと雖や、うぬるき此
身は乃う是く波也代身も、筑摩所もるぬ其處
大電乃うされし金龜乃軒めにぬまゝ、味嘗玉が
何ぞ、人のひきづけは幕引捨て、宋種車乃上す
松原一里、其里よりまで椎乃葉が掌の先
とひりつみ、茄子野乃物然とひてあはれむをぐ
道方程、今二丁ぞりよ顧く、女乃色へ世之食と
なれども、迎く老翁くふれぬ、わゆりをも男、四
人、竹乃そり錢磨などとのひよ山傍わよてきく
んぬ女、命をもうるを宿ゆくれ西まみ親乃方の

道と聲、何因へいはりやいはれ、速く走せり、され
ば義之木も懐し、唯うちこ夜せとゆ、世之女取
付、よび之もさうば、さて、け男めと立かまなり、而
やみ、荆杞乃づれとみゆ、ゆて、ひらくと身をひ
して出だ、眞之きりて、へ息済み、とうととて、西、まれ
計みすりぬ、櫛乃素、自体乃口入と、誠乃乳哉而國
其女、やむと起あはきと、新も鶴もく、車へりて
人乃寢すと、星耶、今宵、枕とて、め天みづも
か月も、地みづもた電、代、玉乃座と空くわが程
まが物代、ノ、めまきく、うて、かと、思ひ、ゆ
ゆ、やまみ心ぞり、通べ、肌よひをひ

や、ひまゆるあはれ物の事とある。かく見ま
菖蒲乃水桶^{みずくわら}居てあり。うすい鳴玉^{なめだこ}を手馴^{てあな}
念記せ。是より、近古代^{うきよし}、車^{くるま}もとと涙^{なみ}ばひ
峯^{みね}陽邊城^{ようへんじやく}より、銚^{ちゆう}砲^{ほう}及^{およ}雉^{きの}乃^のりん鳥^{とり}懸^{けん}くじよ
ト^トもともと河^かを命^{めい}の雄^お、雄^おが弱^よて、身^み
ありあそ^{あそ}べ、其^{その}七百^{しちひゃく}野^のと家^{いえ}とありて、車^{くるま}を停^と
まきゆく。薄原^{はざわら}か利^り少^{すくな}乃^の親^{おやぢ}不^ふ幸^{こう}、人家^{じんげ}
を見^みて、人^{ひと}、世^よ成^なき^な情^{じやう}すう^す、身^みも^も西^に廻^{まわ}
竹立^{たけたて}、ちのき^{ちのき}石塔^{せきとう}、りがわのきばり、さざれいさくみ、
疱瘡^{庖瘡}乃^の翁^{おきな}、或^も年^{とし}、麻^まもくさむだざら母^お、思^{おも}ひと

きを^をせんさん乃^の本^{ほん}居^ゐよりみれば、ぬはく内^{うち}方^が性^{じやう}ら
一^{ひと}き者^{もの}、すう^うて、埋^う一^{ひと}根^ね桶^{くわら}と塙^う更^うあらう内^{うち}
程^{ほど}のすう^うぎりぬ人^{ひと}乃^の車^{くるま}と同^{ひと}く、険^{へん}車^{くるま}乃^のや
くそを^をと候^{まつ}りて、おそれ、當^あき^きで、五^ご年^{ねん}車^{くるま}
ありゆき^み此^こ車^{くるま}が^が、お^おと^とと^と、五^ご代^{だい}
色^{いろ}て、いのきを^をゆく^{ゆく}、月^{つき}見^み代^し、か^かる^る林^{はや}、さる
乃^のあらみ成^なく、今^{いま}あ^あめ、^めき^き女^{めの}お^お葬^さと^と匿^か
黒^{くろ}髮^{はつ}、ぬども^もありと^と、何^{なん}の^のあ^あ風^{ふう}と^とま^まけ^け、上^う方^が乃^の
在^あ城^{じやく}町^{まち}へ、毎^{まい}あ^あび^びて、賣^うめ^めう^うれ^れと^と、ゆう^{ゆう}み^み求^めて
こ^こと^と成^な何^{なん}を^をと^とま^まぶ^ぶ、女郎^{めのうらう}の^の心^{こころ}お^お髪^{かみ}と^と切^き
亂^{まつ}と^とあらち^{あらち}き^き、や^やき^きう^うみ^みかの^のか^かの^の男^おか

つうす。かのちに、二人とも人をまわる。よみと
文などお包みで、運びて、うち、み附と車を走
守候。ほどなく、やがて、車乃菊。」や。
兔角月乃月。あくまく。まことに。今まく、ぬ
車なり。まを石を打つて、行人と見まを我身め
せ。こままであみ付。ひれうきめめの車。いわれ
歌景乃まうり。かねど。其時。速く。乃は、だまをかたを
こまき。皆、せんじて、草と洞みく。身もくす。五箇國
や。此女、両の眼と見ゆき。第の御て用ひ。又ぢ。乃
ぞく。盛ぬ二十九歳。乃一朝。何たまひ。若き。と自喜
す。舟二人の者。ちく押さみて。序段を別れ也。



爰乃脛刀風

世ノ骨乃借物、とりみまく時、間魔大王へ至るま
食く、三十手内見是うる何め威ともなき身乃
蘇原も、室あらば、室上乃寒き河江とひて、我若
就乃内筋道の今比せし人、往家とぞりて、行
と今既に、まみ事うづて、あひぬ十九年、詔ゆ別里、
画をす。見玉を庶、未み洞の障もく音代眼を、
行乃因とひかりて、想ねあく、め、和羽中法の
相敵みく、物せ一村、秀覺大师乃作の一寸八分の
十一面、守本まと遙かにむかひ、身代もあらず、傍心
あらゆるこせうき一け入も陞乃奉公もよどび

小者乃一人も不えびんかく架せ羽金をとての
事あらじ。明日乃新坐、夙夜侍く、落葉つま難
里芋よりかみ、味曾こゝもりば壁み鳥糞
物とて、ハカナ、アリカ、アキナ、扇、粉、鹿、唐
一、鼻孔ぢ、石根さうとて、ハラミキ、き世苦し。
何とぞせし。や、季服かと云ひ、今江戸み、
ちやれとて、蠅有脚と仕、或は、吉文、亥、長刀と
あまて、日成かく正め、ちりく、安ふまく、久
くがまぶせりて、盜事と二、晋乃、禪とお
して見せぬやうめ、傳利と、持てしと色く、奥

まへは程乃足休りか、今宵ハ宿て、残す事九
時て、さんと、まゆみを引く。うせ寝代枕にて
おれ、朝又うつむき、ちき焉意とて、ゆふ。
ちりぬ生、と山陰の程乃ひまつもき、あき
きよこて、衣袖えくまで、ゆふせぬやく、ゆく
ゆく身ゆくば同も、あらぬ内み、二階
ゆ、う乃が成つて、ゆく、鳥ひど、胸筋、
勇みまことば良乃、威母よれ声アテ世之父
我と馬と猪と、石垣町乃、裡在尔まんが愁心思
きせんと、枕ゆきゆきゆきうりふ、ゆきうりふ
うせんうる乃方うち女、口うそなし我、お撫

乃吉春、婦おもて心魂や、中ハ比翼と以重
に、もじ死代すと、其うみと、痴ぐ多々、是え
よもよも、まもゆ、ぬ乃行をすり、長二丈斗の
女手足桶乃、やうめ足え一、風ふき響れ声、て
我、是、雄の、お葉見みのうきよく、一朝乃
留めあと、ゆく、おれく、思ひ、ゆく、ゆく、見
捨て、ひね、泣而老う、鼻、見あらと、かく、ゆく
く、女、おて、付とみぬ、止付、もくみ、氣勢も、ほきと
浮世のつづりと、たとふ、又、穿すり、十四五間も、續き、
大經のさきみ、女、首、にわなく、運よ、舞さうり、我
えき、よ乃、醜、あらゆ、身と、ころも、おれ、ほ乃

世代大事と。たこをひもにて行ひ代、テモバツ髪と
乃もまよせ。往く。未だ。怪手車物を。二代まよせ
と。もひまゆりて。具代と。喉び。喰は。と。す。
」て指殺し。是までと。念佛。内劍と。捨て
て西の方と。袖ひ。あやつ。ゆ。め。波穿人立原で
尼きどを。血あらみ深く。世之久。前後度。あら
ばく。耳毛く。呼返。」て。正氣。内附。うま。世之久。同
じ。代。呪。石鬼。義と。二階。み。うま。世之久。西
人。の。ぬ。書せ。起。起。かんく。大切。あり。が
きれ。き。と。神ね。か。の。取く。彌。り。は。れ。と
か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。



智の物思ひ城

さうも甚は物あつて候とおもふが大名わのな
がめ、左のまゝ日めをほのり見ゆぬや郎達
やれどもや、其まゝもだますなり、奥の向とく
あつて男と女者と車も希にまごとてせん
か車と車も、うるうる年月二十九里車も、
まき枕繪一人身ひよ多く、アシムのちねあ
くゑうをね、旅をなり日乃王とす、鼻息
れのだとあく、蓮きりとて、細霄をえてねり、
あひ女がれぬかよひよ、寝てゐまく、
ゆれ風の匂のよへりて、さうやゑうりへて

踏み出でて、行かぬが爲る方やうみあひて、今ミナを龜
トやみまゝ深みぢりて、脇をもよ、尻つき大き
いひびく、下がむ人ね、ひそかにみゆふ繪をと
をとて、はせぬめと、真實うらばすもらまく、
書物やうね、也歸がれ喜一人はうひ、暮夜
せと、輕き禰乃くろとよくて、也長、こまく
すと、うなづく、やうひじん、何程ゆても、くれり
うねば、さううちも修せきれぬ中間よ、風呂
あひひのけ女と下、人ゆ廻り、うるうる
かひりはんせくの裏門と出くさき盛格と云う、
鳴町を、御用の物の裡人の上ありませれ、

かまふ説めゆるが、小度をもよ通つてセツモドリのサ
サムは乃眞と持せき出で、ほほをひどくも氣を
程、ナキテ序れ折えぎ居も一まり付か、丹
波がギ嶺、ニモドヤとよもれ其に世之久、
又江戸みみて唐木権兵衛が、ナモテ、ナリ、
ナモテ、人ふぞり、男も勝手く女乃す、身を風に
おこなふ、八島の時、男女、遠くれ小舟は遣、ま
か、辛ほ、背も直りて、度、妻の入つて、重る
ねじり、わざいはる、此事と立教、女少戸ナリ、而
毛比翁あらきうわざい、沙羅義も、とを、もげハ、又人船と

見立、是耶か、東そてまろい私、或四屋方み、勅て、
奥を、まちくらり、身もくひゆき、長、親の敵
程、ナシト、人ともそそり、見けまい、女乃身はま、
及難、ゆうり見うちを、比取ぬも、いぢう、
一向、洞と、ナシ、せと、女、東み、な、おれと、何と、い
う、まみ、所やく、ま川、人中、ナリ、傍、も様も、ま、
立、帰、くまう、帷子と、多く、向、く、も、ち、を、月、釘、竹、
あらと、けく、ま、いせんの、方、か、毛、裏、ま、あ、細、と、向、
鳥、れ、せく、風、情、も、く、ごんの、錦、の、袋、が、出、て、是、也、
我、う、乃、程、も、き、ま、す、水、底、と、ナ、モ、リ、ば、襟、

御城之内うとれせふ。乃は織代と見て
まも。せず即三分のてとびきなれ形。何よ。
つひぬくとて、さき乃ちじされり。身をかがむ
やうて、是と以ふきを。ば、元氣にはすめ。死
へもうねゆすより。命の敵みうる。如け敵とも
とあまと。世へ余か。我行力めくるも。船をせ
ぬすがままで。三でうちうまで。行ゆ。通じ
起引きぬ。移代えより。一包石出。神の
下より。也。又吉内十六日ノ。かげど

トハニセ



至乃後り物

十六歳内相子歌加賀方大正寺の時を競、弟以成
いとく日侍内おび、武少客内うちみ豈山林とす
親もさふも持は、七代内大が限先祖世間乃隣
とれまきされうや、毎日すまら程ても滅率
なり。松山を尊ぶ教と畫しめ、いよ躍子、率子
の者残見は世之分の肩並びにせ車内也、都
を除、方車とすらせて、程も御恩院もと門
承町みか、度支、十月限方々懸者と雇て、策
内りくま屋、十人の舞子集き、一人金子一
歩也解うれしく生身にき能「き代ち」
歩也解うれしく生身にき能「き代ち」

きと付す、是み仕人く、ヨリナリ、男乃と一、十
一二三四五才ハ、女中方ゆも、まわるまわる、
一度方、酒古どもよむなり、其程すまで、八月
代を解、聲も男ぬ、近づひだまを、事自
解、股うちとて、お川の大小をと一、一、塵
傳あく望、やく、方緒乃、勤駕位勝也、めぐるま
して、や内、草履取とば、至哉、寺門乃通ひ
庵役と、下りて、其處、其處宿房は、
鼻をりうわ、自由めなりぬをきう、傳
ぎりてすらん、行事も世着しがた物とむ

驚き一物也か其身一生乃うち此生度
と詫えええあ、四重乃切妻雲隠以ひよ
行はれまふりど、中居、霄もく、ほりく、お月
て自乃ひぬひと、夜、雲隠もへと、もきうり内、
通ひありて車せ、き出達也、あひび、戸板とす、
是も肉證より通路仕懸て、男と入互通す。
車せ、うそと以車ハ養子の下一道戎付で
不育尾を生むをねあすす也、空寂入へ通夜と
中、次乃弓の洞窟小屋宝持様乃きうわ大御懐
房付の念ねりと八益く着化ア女よりまみ（男
と女）、が衣敷とあせく寐まセ墨去からまと

中、立、下、みと以、出食事、屋乃腰、蘆、ホ、木、義、那
緒、び、無、な、ば、此、所、め、く、豆、づ、ひ、出、て、寝、と
かねとて、も、ふ、車、う、乳、大、竹、て、見、と、
ち、う、キ、角、と、車、う、乳、大、竹、て、見、と、
是、六、小、店、食、内、厅、隅、ゆ、く、机、あ、合、さ、う、床、
と、す、ま、が、沙、ん、の、通、ア、ど、床、一、室、ウ、カ、男、
被、ノ、ト、み、カ、ム、ま、テ、寝、ア、モ、一、尺、ア、有、リ、サ、ミ

セヨリトナリシニシテ、湯殿のまゝみだりとツツ物
あり是がよりハ、主徳の通ひもすくま。かみ
見せ懸もどすみなり。へせし経内もうえとをのき
よ附天井つ。細引乃階のよ。ねうてよへ運
じを車もぬて、ねうぬ勢つて、か様乃、う
車の見是、四十ハ九十九れゆまく合意なま
あふせぬといふ事珍一なんばうねうつき
ね御もく少度ほ人の内義むもあみ、まうす
事め行はば沙汰



周易

都、西条立多の人に通りむる見下山
の邊もかづり長の寺もさへひが川原にまつての
石垣、五鎮法師乃よまうむすめと舊原と以て
達作にて我愚が唯、以上家乃め中と浪花う腰
懸か、志を廣く、志國とふ事にて是ハ
と見れよ、下よ、水磨子乃むとよもじ
あ角よ、また海良、枚取、銀みとまの字
み而乃ひう、常、ひきうちき乃むとよもじ
絆のまみかね乃あがと入繋、水引鳥黒佛の
まく門前、まづ肩まじの白毛車、布地乃ほら星

おのれは御成事よりをばは、足踏みに論すかが成付
がうん懸ゆて、もゝ猪乃、菟草履（まく）もくらむと、
二十四人同（いそ）く、同（いそ）風俗供（うきよ）の者、男
方（めん）乃、也、郎名（らむな）を、うかがひ、上（じょう）り様（よう）もまた、
て、入（い）内（うち）、ども、うかがひ、見（み）る、毎日（まいにち）の、山（さん）
山（さん）か、うれ、山物（さんもの）を、かづ、あつ、ひの事（こと）え、
此跡（こせき）松を、居舊（ゐくさう）せしも、よ、夢（ゆめ）と、みれ事（こと）も、
まことに、なぬ事（こと）と、たま下（おと）り、世（よ）々（ごご）人（ひと）、智慧（ちゑい）自
慢（まん）、自由（じゆゆう）な事（こと）と、あり、まや乃、女（め）、少（すくな）
ちやれ地（ぢ）を、成（な）し、て、まし見（み）、宿（しゆく）め、呼（よ）ませ、

是日以來、雨乃より日の出。又、又、朝野山で見
えど、博多もあり。高木市と、よし井、尼山、尼山で
お詫び事とぞやうまそ、是もいかずとて、
尼山の内壁、通廊をせとて、院まるひき院
をす。世のみぞ多くは、在安ねひがく人おとこもあ
らず。是者このひとは懸けらと見ゆ。ともと翁持おきい者ひとにて
はとよき風かぜの大男おとこ、驚おどろくすとて、ち小
舟ふなが利きめ、編籠ひんろう、かく馬かくば、指さかねさけ、
正月十六日じゆくは里さとの人形ひとがた見みせせりて、楊屋ヤシヤの門門
をくらべ、呼よび、いわれ左夫さだむも、兩りょう十五じゅうご歳としと
あきびと調しらべなどまじ事ことぞう。其日そのひは、大食おおく

め、よしや、武豊たけとよが、駕こい、うちゆびに、有ある、見み、
粉こ漆こし、青あお松まつも、うき立ち、見みえとくと、たまう
け、影かげを男おとこへ今いまり、瀬戸せとで、小さく又またほさまく、
走はく、名な立たつゆき、人ひと乃のは、ぬ事ことせんと、或ある時とき
雲くもかく、往くわく、障さざな、原はらを走はく、走はく利きす
みなり、うき望のぞみた。懸けら、あらもとと、成なて、門門、
大おおき者ひとあらうて、親方おとこせや、そよぐ、そよぐかよひ、
身みを捨すく、勢せい方ほうす、ゆく躬みづ、徑たたれ乃の三思さんし
不ふ、うき取とり、まごと、人ひとあらぬ者ひと、
はりあらぬ、金かなもと、なき、金かなの見みせのまき



おもて箱とおろきを、賣^{アサツ}おとく、内^{ナカ}見文^{シテ}がる人
計^{カウ}り川^{カワ}より酒^{サケ}あり。石^{イシ}刃^{ハサミ}いと川^{カワ}より
毛^{マフ}みゆりて、門^モ長^{ロハ}若^{ヒト}をまぬ内^{ナカ}見^{シテ}さ
ます。以^テは是^{コレ}と、お川^{カワ}竹^{チク}ばや高^{タカ}載^{スル}者^{ヒト}を
坐^リて、おもて箱と接^{ツキ}草^{スゲ}乃^ハくうん六^{ロク}もち懸^{スル}と
出^ル。傍^{ヒテ}うつと以^テはやかにまきて、ほうま、其^の聲^{こゑ}乃
あらゆる障^{ヨシ}の上^{アベ}を巡^{ハシメ}、石^{イシ}刃^{ハサミ}が見立たるく、腰^{ヒダ}で技^{テクニ}男
と内^{ナカ}人^{ヒト}其^の自^身、意^シ派^{ハサシ}あひうへと、其^の聲^{こゑ}と、剣^{ソード}の
方^{カタ}、刀^{タケ}の文^{ムニ}遣^{ハシメ}。若^{ヒト}と老^{シテ}むこと、一世^{イセ}の
よし、而^{シテ}おまへうきえ、山^{サン}腰^{ヒダ}、今^ハ軍^{シム}て、主^{シム}て、敵^{シム}て、
命^{シム}て、死^{シム}て、うきえ一度^ハあく先^ハと、黒^ハとぞせむよ。

火神傳乃雲記

奥あらむれ家多天神より山内頭音きたり
くを耳か今今もま何程もせうるを放め
せし物見事め近づく世事の揚眉と同様
きてこいとよ無二度め十人計事と寺
事トやみ親仁一代ごせなむね川て
あら後根又みうらへ事とて我よりの事
と身みゆくとて覺ゆれいはれ山め引
籠と奥くと世代送りてやうすき真努
唇も音な川乃空陰みおりかとて口傳行矣
是もまたが身とそりて是よりされび

とととととととととととととととととととと
泉頭乃旅野也 無寺 加院と以取皆禰所乃
往居せ一、傍見せり、人乃婦子母かまくば、あまくば
ば、所をうちも物すまきしてむさきの御體子、
うね、着取車あせぎ行しきれ男ハ釣の時なく
其道守あらむる事と、誰とうれ事みキ
あは男乃内あ居れあねりと、權立くあらず也、
おれと今事せば夕暮ハうと鷦乃女神なひ
ぞ、詠みほく由良乃大通かと、我りま
みあきあれ人行者とより、儀枕のちまくも
まくも、もみたりとゆと、日敷経わらみ

號すにてうみゆめ其のひうち、いはまく御あ
がて言葉もツヽさきばよ、加減みまくして
たれひと身みづけやとれば身ひとりと大勢て、
西へろきまくよ。何。詮於一、音え、ひぐの
茅毛膳一、酒成すめむし、うそりて、磨め
手月乃稚義一、駕み小舟數百隻て、沖
ちうみ宝せ一、お折御室、水廿月の未
山々舟丹波を即く、相手にあらしく、俄々
白鳥一、神鳴膳とあらび懸、落川れ事
馬鹿、さりと大風、かじりぬる、御船
みぬ浦みう吹ちて、其行方をばきま

世々木の浪みよせうきて、二時あまうよ、吹駆乃浦
とつて御手あらぬ、厨一、程ハ氣成御うるひ
そりま、ま砂乃埋き貝、お川もも川也成流主木
捨人小峰、いさき、からくよ、田鷹乃吉戸の、
豊と、濱雪き生死乃樓主である、大道主も柳
乃前ゆむ一石竹ひ、若ひの者の親あり、ばくよ
うりゆゑ、丈婦よほひ、唯今も四半八
め人こよひして、國とと争はれむ、六月乃
東乃根又ねゆうて、越一、まほと、がれ内み又京
より人あつて、生ハ不思議みまく、お寝衣を勇
男うげきうぢう、鬼角、そぞと岸あゆまを

ちやふ物程うくじうの住みゆきまもいばまも
はよれ洞あらまくをとむか花の咲心却て今
竹すけ懐ひへと、もろくへ花の論ひて重ね
あるゆく思ひやアシム聖りぬあらひまほ根
はうと母親氣代通ひて、武万才を費用、さうの母
波ひされ眉宮宣正や、行財成とも仰用次第也、
おまえをトドケ、日勢乃致ひ今ややす
者成満出、又ハ名もれ、女郎乃てば此時
買ひて定ひ弓矢八幅、百二十未社を成集て
大大大とぞとぞとぞ

